



①ほっとするね 緑の府中

府中市

# 指導室だより

－ 第93号 －  
(平成24年9月発行)

【編集・発行】

府中市教育委員会教育部指導室  
〒183-8703 府中市宮西町2-24

電話 042-335-4063

## いじめのない学校づくり

～ 府中市教育委員会 久芳美恵子 委員長からのメッセージ ～

滋賀県大津市の中学校において、生徒が自らの命を絶つという痛ましい事件が発生し、当該の生徒がいじめに遭っていた事実が確認されました。尊い子供の命を守り、このような痛ましい事件が二度と起きることがないように、学校、教育委員会の関係者はもとより、家庭、地域も一体となっていじめの問題に取り組んでいく必要があります。

各学校では、夏季休業日前に緊急調査を実施し、「いじめと認知した件」「少しでもいじめの疑いがあると判断された件」について、迅速に情報収集と実態把握を行い、家庭や関係機関とも協力して早期対応、早期解決に取り組んでいるところです。

府中市教育委員会では、久芳美恵子（くば みえこ）教育委員長が「いじめに関する教育委員会委員長からのメッセージ」を作成し、これを2学期始業式に全校で校長が読み上げました。この取組みは、「いじめは人間として絶対に許されない」という基本的認識を徹底し、「子供たちが互いにいじめを防ぎ、なくそうとする」心情に訴えるとともに、「学校、教育委員会が全力でいじめの根絶を支える」という風土づくりをねらいとして行われたものです。

今後とも、「いじめはどの学校にも、どの学級にも、どの子供にも起こり得る」という基本的認識を再確認するとともに、「いじめは絶対に許されない行為である」という姿勢を強く前面に打ち出し、家庭、地域、関係機関との緊密な連携を図りながら、府中市全体でいじめの未然防止に取り組んでまいります。



### 府中っ子のみなさん

みなさん一人ひとは、世界に一人しかいないかけがえのない存在です。何にも代えることができないたった一人の人ということです。

今、この地球上に約70億の人がいます。その中であなたの身近にいて同じ学校に通う人たちの割合を思うと、その人たちと出会えた偶然はまさに奇跡ではないでしょうか。

そのような奇跡的出会いに感謝こそすれ、悪口や陰口、「ウザイ、キモイ」と悪態をつく、持ち物を隠す、暴力をふるう、仲間はずれなどで友だちを傷つける“いじめ”は、決してあってはならないことです。

いじめを受けている人、あなたに非はありません。我慢してはいけません。身近にいる大人にいじめでつらい思いをしていることを教えてください。全力であなたを守ります。

いじめを見ている人、いじめをしている人にいじめをやめるように言いましょう。黙って見て見ぬふりをするはいじめをしていることと同じです。止める勇気がなかったら、せめていじめがあることを周りの大人に伝えて、助けてもらってください。

いじめをしている人、いじめはいかなる理由であれ許されるものではなく、いじめる側に100%非があります。あなたは「いじめじゃない。遊びだ。」と言うかもしれませんが、しかし、それがどれだけ相手を傷つけているか想像できませんか？ 死んでしまいたいほど苦しんでいるのです。いじめは人として卑劣な行為です。それによって、自分をも卑しめていることに気づいてください。すぐ、やめるように。

奇跡的に出会えた私たちであり、互いに世界にたった一人の存在であることを思い、自分も周りの人たちも尊重して、共に生きていきましょう。

平成24年8月25日

府中市教育委員会 委員長 久芳 美恵子

## いじめのない学校を目指して ～ 今、子供たちのためにしなければならないこと ～

子供たちは、大人に対して様々な心のサインを発しています。学校では、このサインを的確につかみ、教育相談的な関わりや集団への指導を行うとともに、家庭や専門機関と連携していじめを早期に発見し、対応することが極めて重要であると受け止めています。具体的には、次のポイントを重視し、指導に当たるようにしていますので、ぜひご家庭でも参考にしてください。

[参考資料/東京都多摩教育事務所 所報「たまじむ」平成24年度第1号]

いつ	どのようにして	どのようなことから	何をつかみ	どのように指導するのか
登校時	<b>子供のサインをつかむ三つの方法</b> ◎ 見る ◎ 聴く ◎ 読む	<b>子供から発せられる三つのサイン</b> ◆言葉や行動に見られるサイン ◆表情や態度に見られるサイン ◆体に見られるサイン	家族関係の悩み	(1) 声をかける 「どうしたのかな、元気がないようだけど」などと声をかけ、落ち着ける場所で話を聴く。
授業中	<b>&lt;見る&gt;</b> 注意深く子供を見つめましょう。 いつもとは違う、子供の様子、表情、言動などからサインを読み取ります。	<b>&lt;言葉や行動&gt;</b> ・あいさつをしなくなる。 ・一人で登校するようになる。 ・遅刻や早退が増える。 ・一人きりである。 ・孤立している。 ・友達と関わりが見られなくなる。 ・友達と遊ばなくなる。 ・忘れ物が増える。 ・宿題をしなくなる。 ・教師から離れない。 ・攻撃的・衝動的な行動 ・「遠くに行ってしまいたい」「生きているのが辛い」など絶望感を訴える。 ・死についての文章を書いたり絵を描いたりする。	自分自身に関する悩み	(2) 丁寧に話を聴く 子供がなかなか話し出そうとしないとき、じっくり待つ。「話しくいかな」など子供の気持ちを推し量りながら話しかける。 子供が話し始めたら、「声のトーン」「表情」「身振り」「姿勢」などに注目し、一つ一つの言葉を丁寧に聴く。 「生きていても意味がない」「死にたい」などと語った場合、即座に否定しない。
休み時間		<b>&lt;表情や態度&gt;</b> ・身だしなみを気にしなくなる。 ・授業に集中しなくなる。 ・無気力になる。 ・笑顔がなくなる。 ・投げやりな態度が見られる。 ・ゆううつな表情をする。 ・不機嫌でイライラしている。 ・顔色が優れない。 ・表情にこわばりがある。 ・急に成績が下がる。	成績や進路に関する悩み	(3) 心の奥を理解する 「生きていても意味がない」という気持ちの中に、死にたくなるほどの何かが隠されている。 「どうしてそう思うようになったのかな」と聴く。その中から更に、そう思わざるを得ない状況や、どうにもならない気持ちや苦しさを聴いていくなどし、子供の心の奥を理解していこうと努める。
給食の時間	<b>&lt;聴く&gt;</b> 日頃の会話や、やりとりの中から、子供の思いを知りましょう。 子供の語る何気ない話の中から、気持ちや考え、また、その変化の様子が分かります。	<b>&lt;体&gt;</b> ・体の不調を訴える。 ・保健室や職員室に行く回数が増える。 ・疲れている様子である。 ・眠れない様子である。 ・食欲が急に落ちる。 ・体重が減少している。	友達関係の悩み	(4) 子供の気持ちを受け止める 子供から打ち明けられた気持ちや心情について「そういうことを経験して、つらくなったんだね」などと共感的に受け止める。 「大丈夫だよ、皆も同じだよ」といった安易な励ましや慰めは、子供に「どうせ分かってもらえない」と思わせてしまうので、禁物である。
清掃の時間			友達関係の悩み	(5) 教師の気持ちを伝える 子供が苦しい心境を語ったときは、まずはその気持ちとその背景にある事実を受け止める。落ち着いたところで、「あなたのことをずっと応援し続けていく。つらいときには気軽に相談してほしい」と、教師自身の気持ちを誠心誠意伝える。
部活動	<b>&lt;読む&gt;</b> 作文や健康調査票などから、子供の心をとらえましょう。 授業での作文やノート等の記述の中にも、子供の思いや訴えが込められていることがあります。		部活動等に関する悩み	(6) 保護者の理解の必要性を伝える 子供は、保護者に心配をかけたくない、話しても分かってもらえないなどと思い、つらさを伝えていないことが多い。親子関係によって話せない場合もある。 そうした状況を受け止めながら、「(保護者に)話して少しでも理解してもらおう」と伝える。子供の不安な気持ちを支えながら、自分から伝えられなければ、教師が代わって伝えることを話す。
下校時				

## 組織的かつ開かれた取組み

## 学校の組織的な取組

- ・一人で抱え込まずに管理職に報告する。
- ・関係の教職員が集まり、事例検討会をもつ。
- ・教職員間で役割を決め、柔軟に対応する。

## 保護者との連携

- ・子供の様子を伝え、家庭での様子を聞く。
- ・専門機関を紹介する。

## 専門機関との連携

- ・専門機関の助言を活用する。
- ・専門機関との継続的な連携を図る。

## 子供たち一人一人に生命を尊重する態度を育むために

平成7年に、法務省人権擁護局が中学生を対象に実施した調査では、「あなたはいじめを見たときにどうしましたか」との質問に、「特に何もしなかった」という回答が45.3%ありました。

いじめ、暴力行為など、他人を傷付ける行為を抑制するためには、授業や日常生活の様々な場面において子供たち一人一人に生命の大切さを十分に理解させ、生命を尊重する態度を育成し、生命の大切さを自覚させることが重要です。人間の生命は、人との関わりの中で、生命の尊厳について理解させることはもちろん、生きる喜びを実感させるなど様々な視点から生命をとらえることが必要です。次の6つの視点から生命をとらえ、学校・家庭・地域で連携し、人間関係の中で生命を尊重する態度の育成にご協力ください。

### 人間関係の中で育まれる生命尊重の視点

#### かけがえのない生命

生や死の意味について真剣に考え、理解を深めることにより育まれる「かけがえのない生命」



#### 支えられている生命

自分の生命が他の人や様々な動植物により支えられていることを実感することにより育まれる「支えられている生命」

#### 支えている生命

身近な人たちを様々なかたちで助けることで他の人を支えることができるという自覚により育まれる「支えている生命」



### 6つの視点からとらえた生命尊重

#### 主体的に生きる生命

自分自身を価値ある存在と認め大切に思う自尊感情を育み、生きる喜びを実感することにより育まれる「主体的に生きる生命」

#### 限られた生命

幸せに生きるために、自分の人生をいかに大切に生きるかを自覚することにより育まれる「限られた生命」

#### 受け継がれる生命

親や祖父母を大切に思う心情や自分自身の生命が大切であるということを理解することにより育まれる「受け継がれる生命」

## インターネット・携帯電話利用に関する実態調査から

東京都教育委員会は、7月に「平成23年度インターネット・携帯電話利用に関する実態調査」結果を公表しました。調査結果によれば、インターネットや携帯電話を使っていて、トラブルや嫌な思いをしたことがあると回答した児童・生徒は、小学校で9.2%、中学校で22.4%でした。その内容に関する設問では、メール特有のトラブルに加え、1割以上の児童・生徒が友達とのトラブルやいじめの原因となり得ることを経験していることが分かります。

また、携帯電話の使い方について「利用ルールを決めている」と回答した児童・生徒は、小学校で約6割、中学校では5割未満となっていますが、保護者に対する同様の質問と比較してみると、その認識に差があることが分かります。

携帯電話はとても便利なものですが、無意識のうちにトラブルの原因となったり、友達を傷付けたりしてしまうこともあります。ぜひご家庭でも望ましい携帯電話の使い方について話し合い、ルールを再確認していただきたいものです。

■どのようなトラブルにあったり、嫌な思いをしましたか。  
(「トラブルや嫌な思いをしたことがある」と回答した者が複数回答)

選択肢	小学校	中学校
チェーンメールが送られてきた	32.8%	72.0%
知らない人や団体からメールが送られてきた	21.2%	37.2%
身に覚えのない料金の請求メールが送られてきた	5.3%	13.4%
なりすましメールが送られてきた	4.6%	14.4%
メールが原因で友達とけんかになった	12.7%	17.6%
悪口が書かれたメールが送られてきた	11.7%	11.1%

■携帯電話の使い方について、保護者の方(お子さん)とルール(約束)を決めていますか。

選択肢	区分	小学校	中学校
決めている	児童・生徒	63.1%	47.1%
	保護者	84.4%	76.1%
決めていない	児童・生徒	19.3%	31.4%
	保護者	9.1%	11.6%
どちらとも言えない	児童・生徒	14.9%	21.0%
	保護者	5.6%	11.2%

## 平成24年度 研究指定校等

学校では、教員の指導力の向上を目的として研究テーマを設定し、授業研究等を通じて実践的な力量を高めるための取り組みを行っています。今年度は、次の学校が東京都及び府中市の研究指定を受けています。研究発表会に伴い、公開授業が開催される学校もありますので、保護者の方もぜひ、ご参観ください。

	名称	指定年度	学校名
東京都研究指定校	OJT推進指定モデル校	24年度	府中第五小
	スポーツ教育推進校	24年度	府中第七小、府中第十小、四谷小南町小、府中第一中、府中第三中府中第八中
	理数教育振興研究協力校	24年度	府中第一小
	言語能力向上推進校	23～25年度 24～26年度	本宿小 府中第二小、府中第七小、矢崎小 府中第一中、府中第三中、浅間中
	人権尊重教育推進校	24・25年度	府中第三小

区分	学校名	研究主題(教科・領域等)	発表会
府中市研究協力校	府中第四小	すすんで伝え合う児童の育成(国語)	2/1(金)
	府中第五小	考えを深め、表現できる子の育成(OJT・算数)	23年度発表済
	府中第六小	自ら学ぶ児童の育成(体育)	10/23(火)
	府中第八小	すすんで運動する児童を育てる指導の工夫(体育)	10/30(火)
	府中第二中	思考力・判断力・表現力を高め伝え合う力の向上(全教科等・特別支援教育)	1/25(金)
	府中第四中	アセスメントテストを活用した集団づくりと個に応じた支援の研究(全教科等)	1/30(水)
24・25年度指定校	住吉小	住吉に誇りをもち夢や目標に向かって共に挑戦する児童の育成(特別活動)	25年度に予定
	南町小	どの子ども自分らしさを発揮し、生き生きと学ぶユニバーサル教育の推進(算数)	
	府中第三中	個に応じた指導の充実に向けた在籍校との連携の在り方(特別支援教育)	
	府中第八中	地域と共に取り組む学校防災(総合的な学習の時間)	
	府中第十中	生徒の学力向上をめざす授業づくり(全教科)	

## オンリーワンの学校づくり ～市立小・中学校、幼稚園を紹介します～

### 小柳小学校



**みんなが  
うれしくなる  
学校を目指して**

小柳小学校では、中休みも昼休みも30分間と十分な時間を設けているので、子供たちとたくさんの先生が一緒になって校庭で遊んでいます。校庭で思い切り遊んだ後は、授業の始まりのチャイムで学校が一斉に静まり、集中して学習をスタートさせることができます。

また、家庭学習「学びの時間」を全校で実施しており、毎日、読書10分、算数10分、音読と漢字で10分の学習に取り組んでいます。夏休みには、サマースクールや漢字検定も実施しました。

子供の笑顔は、保護者・地域・教職員みんなの宝。みんながうれしくなる学校を目指しています。

### 四谷小学校



**豊かな環境と  
伝統に育まれて**

四谷小学校では、豊かな自然、温かな人材に恵まれ、地域の農業や人と関わる体験的学習を全学年で展開しています。「水辺の楽校(がっこう)」と連携した生き物観察や体験活動では、直接自然に触れる中で興味や感性を高め、学ぶ喜びを育てています。

また、田植え・稲刈り・どんど焼きでは、地域の方々とのふれあいを通して、四谷の地域に受け継がれてきた伝統文化や生きる知恵を学んでいます。

今後は、新しく完成した校庭の芝生を最大限に活用し、保護者・地域の皆様と共に環境教育、体力向上に取り組んでまいります。

### 府中第五中学校



**生徒会旗掲揚に込められた校訓「自己発見」の心と形**

府中第五中学校では、生徒会役員による生徒会旗の掲揚が、創立以来、脈々と続けられています。晴れやかにたなびく生徒会旗は、四季折々の風景を携え毎日、「五中生」を揺るぎなく見守ってまいりました。

この伝統ある生徒会旗掲揚は、校訓である「自己発見」の心と形を象徴し、「よりよい自分を目指してたゆまず努力する五中生」の姿勢を表すものとも言えます。

本校が創立50周年を迎えた記念すべき年に、新しい時代の息吹に満ちた新校舎での学びが始まりました。歴史的な瞬間にある今、生徒会旗に象徴される伝統を大切にしながら、新しい府中五中の歴史のページが開かれようとしています。

### 府中第八中学校



**地域と連携した  
学校づくり  
「防災教育の推進」**

府中第八中学校では、地域の方々との連携を深めながら防災教育の充実に取り組んでいます。

具体的には、第1学年では「そなエリア」での防災体験学習と安全マップ作成、第2学年では避難所開設訓練、第3学年では普通救命講習を実施します。

また昨年度から、地域の方々や学区内の小学校と緊密に連携を取り合いながら、小中合同防災研修会、避難所管理運営マニュアルの策定等に取り組んでいます。

今後とも、保護者・地域の方々のご協力をいただき、小中の連携を図りながら、防災教育を通じて安全で安心な学校づくり・地域づくりを推進してまいります。